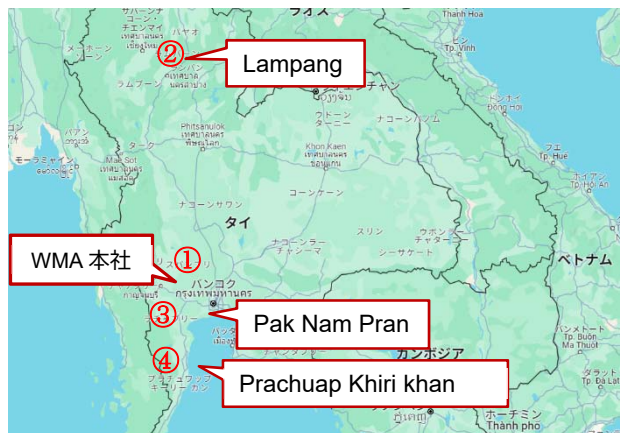


タイ出張報告（AWaP 案件形成）

国際戦略室

2023年11月、令和5年度 AWaP 参加国等を対象とした下水道普及方策検討業務（国土交通省）の案件形成により、タイ王国における地方自治体の下水道整備と管理を行なう下水道公社 WMA (Wastewater Management Authority) の事務所と管理施設を訪れました。

今回の訪問では、過去の研修受講生との懐かしい再会がありましたので、その部分にフォーカスしてお知らせします。



○ Kitti Teerasoradech 氏 (Kitti さん) と Surachet Nokham 氏 (Oh さん)

Kitti さん (写真1 右端) は、WMA 本社 (地図①) 勤務で、地歩自治体との調整や後進の指導を担当しています。

彼と出合いは、私が2016年3月に訪タイした時が初めてで、その数か月後に彼が研修生として日本を訪れた時が2回目、そして今回は3回目の対面です。

現在は WMA のエキスパートとして、主に地方自治体や国機関との調整役や後進の指導に当たられている Kitti さんに、今回は地方都市での調査において、現地事務所との調整をいただきました。

なお、日本には同じ発音をする超有名キャラクターがありますが、そのキャラクターの関連はないそうです。

Oh さん (写真1 左から3人目) は、現在 Lampang WWTP の所長を務めており、2012年の研修生です。私のことをよく覚えていてくれました。それはともかく、彼の若々しい風貌は年月の経過を感じさせない。(うらやましい)



写真1

○ Navin Jitkeaw 氏 (Navin さん)

彼 (写真2 左から2人目: Pak Nam Pran (地図③) 責任者) とは2014年にタイで行なった集中研修会が出会い。

当時の彼は20代の後半で、少しヤンチャな雰囲気でしたが今は体型の変化もあって、しっかりと「おじさん化」が進行しつつあります。

なお、COVID-19 に感染直後とのことで、「眼鏡+マスク姿」で現れ、このため私が彼の存在に気づくのが遅れたところ、「忘れたのかア」と、忌憚のない言葉で話しかけてくれました。親しみやすいヤンチャ振りは健在です。



写真2

○ Khankruer Duangial 氏 (Rung さん)

彼女は(写真3左から3人目:Prachuap Khiri khan WWTP(地図④)責任者)、チュラロンコン大卒で博士号も有する才女です。タイの女性は努力家で働き者が多く、そして他者への配慮も細やかです。

彼女とも10年ぶりの再会で、10年前の写真を共に眺め「時間がたったねえ…」と思い出話が出来ました。

10年前の研修会は、100人を僅かに超えるWMA組織の中から30数人を一度に研修させての4日間のブツ通し。まるで合宿のような様相でした。

研修が終わるとすかさず食事会が始まり、講師、調整役、研修生が分け隔てなくテーブルを囲んで、誰もが同じ目線で過ごした日々が、その後の親近感を育んでいると思います。

その時の研修生は今では重要ポストに付いており、WMAの施設であれば何処に行っても知人がいる状態となりました。



写真3

チョットひと休み (その1:タイ人のニックネーム)

タイ人は正式な名前が長いため殆どがニックネームを持ち、普段はニックネームで呼び合います。このため同級生でも本名を知らない…ってことも起きているらしい。

チョットひと休み (その2:ロイクラトン祭り) ※ロイカトーンと表すこともある

ロイクラトンはスコータイ地方が発祥とされる11月の満月の夜に行われるお祭りで、バナナの葉や花などで作った「クラトン」と呼ばれる灯籠を川や海に流し、水の女神“プラ・メー・コンカー”に祈りを捧げ、水が使えることへの感謝と水を汚すことへの謝罪を兼ねるタイで最も美しいお祭りとしてされています。

今回の出張が11月でしたので、あわよくば…と思っていましたが、日頃の行いが災いし、お祭りの4日前に帰国となりました。

2014年には運よく参加が叶い、クラトンと呼ばれる灯籠作りから始め、シラチャの海に流しましたので、その時の写真を披露します。



写真(左・中:ロイクラトン作りと完成したロイクラトン)(右:前列左から2人目が筆者)

ともかく、11月のタイは乾期の入口で過ごしやすい。

街で見かける観光客は、以前からの欧米系に加えてインド系やイスラム系、そして東アジア系など多種多様で活力にあふれています。寒い日本を離れ、しばし暖かな時間を持たれるのは如何でしょうか？